北播磨新地域ビジョン検討委員会・第４回起草部会　議事録要旨

１　日　時：令和３年６月４日(金)10:40～12:00
２　形　式：対面（一部オンライン）会議
３　出席者：
　委員：内藤部会長、山本委員
　（オンライン出席）：田中委員、松本委員、奥貫委員
　県側：上田局長、大西副局長、菅原室長、小林班長

４　内容
（１）議題（１）
［会長］
・次第に沿って進める。最初に、議題の１「北播磨新地域ビジョンの骨子案について」、事務局から説明をお願いする。
［事務局］
・資料１及び２について説明する。資料１、北播磨新地域ビジョン構成等の変更案について、４月26日の起草部会後、新地域ビジョン骨子案の取りまとめ作業をした。作業の過程で事務局の気づきもあり、昨年度から議論いただいた章立ての内容について、少し変更したく提案する。(1)のア、現状の記載は、旧のものはデータに対しての考察があまりなかったため、統計データと考察を加えた記載に変更した。そして、その本文の中で重要なポイントについて、点線囲みで、内容とそこから導き出されるキーワードを記載した。そしてイ、社会潮流については、将来構想試案でかなり深く触れられており、旧３章での記載が重複するため、第１章では概要、第２章は現状で、社会潮流にふれて記載した方が、県民の皆さんにはわかりやすいのではと考え、そういう記載方法に変更したい。具体的には、資料２の４ページ、(7)少子高齢化・医療の欄だ。一例だが、冒頭から65歳以上の高齢化率は32.2%で全県の28.7%を上回っておりとあるが、これは現状で、そこに2050年には男性で84.02歳、女性では90.40歳と高齢化になると予測されると併せて記載したほうが、章立てを別々にするよりもわかりやすいのではということだ。将来構想試案で非常に多くの社会潮流が書かれているが、北播磨に当てはまらない部分もかなり多くある。例えば、資料２の１ページ、第１章、中ほどの２つ目の表、＜新地域ビジョンの検討にあたり考慮すべき主な社会潮流＞で、１章で全体に波及するということを記載したほうがわかりやすいのではないか、また、先ほど申したように、将来構想試案の社会潮流がかなり細かいので、ここでは概要のみの記載とし省いた。これが２点目。３点目でウ、この地域の皆さんの思いについては、以前は第４章において、北播磨地域ビジョンアンケート、ビジョンを語る会、という区分で書こうとしていたが、現状の中でキーワードを出しているので、そのキーワードごとに、皆さんの意見を書いたほうがわかりやすいのではということだ。資料２の９ページ。自然環境の維持保全に対しては、こういう意見があったというような記載方法がいいのではということだ。これが皆さんの意見ということで、９ページから11ページに整理した。続いて、12ページ、第４章については、冒頭に書いているように、第２章の現状、第３章の地域の皆さんの意見を踏まえて、地域の方向性として５つの柱に整理した。地域の方向性、そのキーワードは、第３章の中で、表の右に、産業・雇用、自然環境保全など、四角の囲みで書いている部分だ。この柱ごとに関連するキーワードをまとめている。次にエ、従来は、旧の第６章、第７章で、地域像と将来像を別の章立てにしていたが、変更した骨子案では、資料２、13ページ、

第５章で将来像、そして、その将来像を目指すために行うべき５つの柱ということで、自然環境保全、多世代交流・多文化共生、地域回帰、産業・雇用、歴史・観光というように、同じ章で記載するほうが、わかりやすいので、変更している。そして(1)の将来像については、４月26日の前回の起草部会で、委員の皆さんに議論いただいた。その後も意見をいただき、二つの意見があった。４月26日の議論の内容をもう少し変更するという意見で、田園と都市が楽しめるここちよい北播磨という意見だ。もう一つは、旧来のひょうごのハートランドという、基本理念をそのまま生かすという意見だ。その意見の中では、ひょうごのハートランドのバージョンを少し変える、例えば2050をつけるというような意見もあったので、案１、案２を中心に、将来像についてどういう言葉がいいのかを、本日議論いただければありがたいと考えている。

［会長］

・それでは次第に沿って意見を伺いたい。忌憚ない意見を伺えればありがたい。まず①の章立ての変更についてお願いする。

［委員］

・読む側からすれば、とても読みやすく感じる。社会潮流が細か過ぎず、難しすぎず北播磨にフォーカスしてまとめてあり、関連する現状と今後の動向をセットにして書いてあったり、読みやすい流れになっている。今後の地域の方向性と目指す将来が上手く合致していけばいいなと思う。私の関心があるのは後半なので、皆さんの議論も聞きながら、気づいたことを後でまた、議論させていただければと思う。

［委員］

・私も今回の修正案に関しては、妥当ですっきりしていると思う。例えば３章を１章、２章に反映させるというような事は、前回の議論の中でもあった意見が取り入れられていると思うので、この度の変更に関しては極めてわかりやすく、妥当な変更だと思う。特に意見を申し上げることはない。

［会長］

・概ねいい方向でわかりやすいという意見なので、この修正案で進めたいと思う。それでは②第２章のキーワードの内容について意見をお願いする。

［委員］

・まず、第２章の地勢・気候の、ビジョンを考えるためのポイント①②だが、「北はりま田園空間博物館事業」を展開しているということで、これを考えた時、その下の一方で公共交通機関が限られ、高齢者、高校生・大学生にとって買物、通勤・通学などの利便性が低い面がある。30 年後は、ドローンや空飛ぶクルマの普及･･･とあるが、この不便さというのは、都市部へ移動することが前提で、不便だと言っている。その前提で不便さを考えたとき、ドローンや空飛ぶクルマが仮に実現したとして、物理的な距離は、その短縮にも限界があるから、あまりそこを何とかすることによって利便性を考えるのは、発展的には考えにくいと思う。例えば買物は、都市部に移動するというよりも、移動しなくても買物ができる手段はいくらでもあるから、そこに力を入れる。通勤や通学なども、通学は少し別だが、わざわざ通勤しなくてもいい状況が生まれるかもしれない。通学やレジャーで考えると、むしろレジャーや体験型の活動などが、ここでできるということで、こちらに呼び込む、その移動の手段を考えていく。日常の足としての交通、移動手段ではなく、むしろ今あるところを生かして、そういうことを考える方が、将来的に30年後のことを考えたとき、むしろビジョンとして有効なのではという印象を持った。今のことをきっかけに全体を見ると、５ページの子育て環境、ふるさと意識の醸成・教育の項目で、５ページの下から３行目のところに、「子育てのしやすさはふつう」という評価に下がっているとある。評価が下がっている

ことの理由が、高校・大学への通学の利便性、これも交通の足のことだが、利便性が悪いことが影響しているとある。これも、例えば高校と大学では通学範囲が異なるので、この状況はどうか。そして子育てといった時に、高校や大学を含んで、大人の世代が子育てと意識しているかどうか。それを考えると、子育てのしやすさというのは、こういう移動範囲の交通の便の問題ではなくて、もう少し、子どもが活躍できる場、子どもが活発にいろんなことができる場、そして何かあったときに子どもにやさしい場、そういうことが子育てのしやすさではないかと思う。続けて全部言うと、それとの関係もあるが、同じく６ページの産業と雇用のところで、６ページの下から２行目、このような流れを的確に捉え、情報通信網のさらなる充実や云々というのがある。その２行上に、地方でのＩＴ関連事業等起業や副業を認める企業も増加するなどという記載がある。こういうものも、総合的に私が言いたいのは、この北播磨のウィークポイントというか、弱点補強のための最重要ポイントは、このネットワーク、Web 環境の整備と充実でないかと思う。これを、他の地域と差別化できるぐらいに Web 環境、ネットワークの整備と充実に力を入れると、いろんなことを呼び込めて活性化もできる気がする。最後に子育てについて、この第２章でも、第３章以降を見ても、子育てのしやすさということに関しては、少し視点が違うような気がする。つまり、子育てしやすい環境をつくるということは、子育てをしている人達は、労働階層の中心でもある世代だから、そういう世代を呼び込むことによって活性化するということを考えるならば、先ほどのネットワーク環境との関係でさらに言うと、７ページの歴史文化の下から３行目。観光客を誘致するためには、点ではなく面として･･･、ここでの視点が、そのあとの８ページの若い世代のメッカとなるような云々･･･でサバイバルゲーム、脱出ゲーム、ドローンレースなどという、いわゆる独身の若い人たち、或いはまだ子育てに入っていない人たちが遊べるゲームというようなことを考えている。しかし、子育てということを考えると、教育機関を上手に利用して、それと連携した子どもたちの、いわゆる校外学習や課題学習、体験学習ということが十分にできる環境だから、そういうものを生かしながら、かつ、若い世代がそういうところで活躍できるような場ということが、結局は、観光客を誘致することにも繋がる。北播磨地域は、教育研修所や兵教大、三木には関国大もある。上手に教育機関を使えば、こういう子育てという、まさしく言われているような状況で、全国もしくは兵庫県の中で、子どもたちがいろいろな体験をしながら学習できる、或いは楽しみ遊べる場という位置付けができると、子育ての面でも少し変わってくるのではないかという印象を持った。第２章の全体の印象のポイントを絞るとこのようなことかと思う。

［委員］

・キーワードの５ページが気になる。ここからスタートしたわけではなく、その次の地域回帰という言葉が気になり、ここにたどり着いている。多世代・多様性・地域の絆・交流のところだが、パッと読んだ印象が、外から来た人にとってこのキーワードは、どうだろうと感じた。もし、地域の外からの交流をふやしていくと、U ターンに限らず、北播磨に関わってくれる人達。それは外国人だけでもなく、その方々にとってこのキーワードは、どうだろうと思う。まず、移住しようと思うと、受け入れてもらえるのか、住民とうまくやれるのかと思うが、ここに書かれている前提は、住民同士が交流をして、助け合いをすると書いてあるが、それは元々いた住民の人にとっては、今まである既存のコミュニティのあり方を、どうやって時代によって変えていこうとか、絆をしっかりしていこうというような印象は伝わるが、外から来た人にとっては、誘致・移動などを図りと書いているが、その定着に至る間での、コミュニティの受け入れてくれる土壌や寛容さだったり、いろいろな仕組みも含めてだが、何かそ

ういうキーワードが欲しいと思う。多世代の交流、子ども世代のふるさと･･･もそうだが、地域の絆といったところが、ちょっと曖昧さがいいと思う反面、地域の外から来た人にとってはどうかと感じる。多文化共生は外国人を意識して書いていると分かるが、外から来る人や、そういう受け入れについての何かキーワードが欲しいと思う。

［委員］

・まずは文章として、段落が多いという印象がある。もう少し一まとまりの文章で段落を作れるのではないかという印象を持った。それから、例えば人口、自然環境、農と食、或いは少子高齢化のあたりは、具体的なデータ、数字が上がっているが、それ以外のところは、あまりないものもある。例えば、先ほどの多世代・多様性・地域の絆では、どれぐらいの方が居住していて、県の何％で、この面積の中でこの人数だからどうかというようなものがない書きぶりで、もう片方では、非常にデータに基づいており、一貫性がないように感じる。だから、もしそういうデータがあるならば、示していったほうが、説得力が上がるのではないかという印象を持った。

［会長］

・１ページ、第１章、第２章にも関係するが、高齢者人口の増加というところは、労働人口の減少という視点も大事かと思う。それからもう一つは、自然の脅威のところだが、地球温暖化の関係で豪雨や南海地震が30年以内に７、８割の確率で起こると言われているので、言及した方がいいと思う。第２章(1)の地勢では、高速道路が２つも通っていて阪神間とは１～1.5 時間圏内というのは、北播磨ならではなので、その観点も入ればと思う。(3)自然環境では、天然林が多いということは、生態系が非常に豊かということだ。保全でとまっているが、活用という概念を入れたらと思う。里山をうまく活用することも大事かと思う。

次に③第３章、第４章の５つの柱について意見をお願いする。

［委員］

・先ほど発言したこととの関係で質問だが、10 ページの二つ目の多世代交流・多文化共生のところの、子育てしやすい環境の整備とあるが、これが先ほどの子育てとの関係でいうと、県内では、子育てのしやすさが普通ということだが、データがあれば教えてほしいのは、北播磨の中で、子育てのしやすさが一番高かった地域、市町はどこかわかるか。（事務局：我々が持っているデータは、北播磨地域のデータで、ビジョン課に確認をしないと、今は持ち合わせていない。）噂として住民の方が言われているのを聞いたレベルで、正しいかどうかわからないが、小野市は比較的子育てしやすいという評価があると聞いた。なぜかというと、例えば子どもの医療の補助がどうだとかいうのを聞いたが、つまり北播磨の中で子育てしやすい環境というのが、どのように評価されていて、どこが一番高く、低いのか。その差は何かということを見ていくと、子育てしやすい環境の整備というのが、具体的に見えてくるのではと思う。ということで、ここに書いてある環境の整備は、子育て世代の親が実感している子育てしやすさとは、少し違う点もあるかと思う。そういうところが、キーワードや意見の中にも出てきていると思うので、先ほど言ったような、市町間の子育てのしやすさの差をもう一度見ていくと、もう少し具体的に何か出てくるのではないかと思う。

［事務局］

・子育てしやすさをふつうというのは、少し書き過ぎかもしれない。データとしては６ページの上から７行目に、「兵庫のゆたかさ指標」県民意識調査というのがある。子育て関係の項目は、三つ抜き出しているが、心の豊かさを育む教育活動が行われるという項目では、全県で１番の評価だ。あくまで全県との比較で、伸び伸びと育っていると思う人の割合は３位でよかったが、子育てがしやすいと思う人の割合が、少し順

位が下がって、言葉足らずだったが、ふつうと書いた。５位ということで、全県の中では真ん中に存在するという意味で、普通という表現にした。

［委員］

・今の６ページを見て私も申し上げた。つまり、子どもたちにとって豊かというのは心の豊かさ、伸び伸びと育っている、そういうところで高いから、この子育てのしやすさというのは、そういう心の豊かさとか伸び伸びと育つということとは、別の要素で言われているはずだ。子育てしやすさというのは何か、北播磨が子育て、或いはそういう世代、特に 30 代、40 代の若い世代にとって、魅力的な地域になるということがアピールできるよう、この順位もう少し上げることを考えることが、大変有効なのではないかと思う。

［会長］

・子育てしやすい環境ということでは、北播磨では、幼保一元化が進んだり、いろいろと進んでいるが、統一的に子育てを助ける総合的なプランがない。また、子どもが１、２人しかいない過疎地域もあり、ここに書かれているような問題の前に、子どもがいないという問題もある。だから、子育て世代、或いはその前の世代をいかに地域に呼び込むかということを考えていくことも大事だ。

［委員］

・第３章は、全体的に少し言葉が足りない感じがする。例えば、表は何を書いているのかみたいなことがパッと見てわからない。ここの項目はこういう内容です、というような事を一番上に書くが、そういうものがない。それから、三角の横に５つの視点が区分されて出ているが、５つあるのだったら、１から５までの数字を前に入れた方が、見る方はわかりやすい。自然環境保全はどこにあるかと、自然環境保全という字を探さないといけない。せっかく５つに整理されているのだから、その５つをわかりやすいような書き方で示していくことが大事かと思う。その５つの視点は、どれに対応し、どのページのどこに対応したものか。いきなり出てきたのか。（事務局：ここは、いきなり出てきている感じだ。自然環境だったら自然環境保全という大きな項目に当たるかなということで、ここではいきなり出てきている。）そうすると、本当は第２章の書き方を、この５つにまず大きく分けて、そこから小項目を立てていくというような書き方のほうがいいのだと思う。例えば地勢と気候は、自然になるのかと思うが、そういう一貫性のようなものがないとわかりにくい。いきなり出てきている感じがあり、読んでいる側は、５つ？という感じになる。前を探しても、５つに分類されているところはなく、１ページの表も６つだけれどとなる。だから、先ほど第２章と同じような意見になるが、全体的な書きようというか、一貫性みたいなものが問われるのではという印象を持っている。

［委員］

・私の理解不足かもしれないので確認するが、今日提示されている資料２の 13 ページ分が、最終的に冊子になるのか。

［事務局］

・そうだ。ビジョン課に確認しないといけないが、我々が思っているのは、この５つの柱ごとに取り組み例をさらに追加していくというイメージだ。今日の資料は骨子案で、現状のところなど、かなり端折っている。最後は、もう少しボリュームが増えて、さらにこの第５章以下、それを第６章と立てるのかは別として、この５つの柱の中に、具体的に取り組み、事例的なものを入れていけたらいいと考えている。

［委員］

・今日の資料は骨子で、実際は、もう少しボリュームがある。そのボリュームを出す

ときに、先ほど委員が言われたような部分、つまり突然出てくる５つの柱については、実は第２章を踏まえて、第２章の終わりか、もしくは第３章の頭のほうに今まで見てきたことを大きく見ると、５つの視点で見ることができるので、５つの視点というのはこういうもので、という当然解説が入るものだと思う。入ることが想定されていなければ、委員が言われたような事は、必ず入れるべきだと思う。

［事務局］

・つなぎについては、もっとわかりやすく工夫する。

［委員］

・第２章で５つの項目を立てて、最初からその中に、それぞれ11の項目を割り振っていくという章立ての方が、いいのではないかと思う。その５つというものを柱にしていくのであれば、第２章から示していく方がいいと思う。

［事務局］

・工夫する。今は13ページになっているが、先ほど５つの柱ごとに、取組みを書くと申し上げたが、骨子案では、そこまで要らないというビジョン課の見解なので、今はその部分を抜いている。これは今後、起草部会でも、議論いただきたいと考えている。そして来週の金曜日に、県民局の中で、若手職員との意見交換の場を持っているので、取組みなど意見を聞いて、取り入れていきたいと思っている。

［委員］

・私と委員の提案は、基本は同じだけど方法が違うというレベルだ。具体的に言うのは簡単だが、これまでの流れがあるので、今の基本的な意見について、了解、納得いただけるなら、実務的な作業に関しては、事務局に一任していいと思う。

［委員］

・それはもちろん、できる範囲でという話だ。あくまでも読む側の印象、読む側からのわかりやすさみたいな観点からの発言だとお考えいただければ結構かと思う。

［委員］

・今のお話、読む人の観点からといったところで、私もこの資料を見ていたが、多分ロジックツリーのような感じで展開されるのだろうと思っている。ところが読み始めてくると、ある程度文章を読み慣れて、読み込めるような人だったら、ここで５つの項目が出てきて、それが次に繋がるのだなというのがわかると思うが、私だったら、図化してもらえるとありがたい。そこにキーワードがあらかじめあり、それはどこのページにあるというような感じで図化してあると、冊子の場合はありがたいと思う。

［会長］

・事務局で検討いただきたい。今は第３章を主に見ているが、第４章について、今の議論の流れも含めて意見があればお願いしたい。

［委員］

・先ほどの５つの柱で気になるのは、地域回帰ということばで、回帰というと、一般的に一回りして戻ってくる、もとのところに戻ってくるというイメージがあると思っている。それは、地域の活用を再度見直しするという意味での地域回帰なのか、本当に移住として戻ってくるようなイメージなのか、その辺りはどうだろうと思った。地域回帰の中に括られている内容、その次の、べっちょないというところ、最後に繋がるところなど、この言葉というか、これをつけられた背景など聞けたらと思う。

［事務局］

・これは勝手な思いでつけている。先生が言われたように地方回帰への流れがある。地方回帰と言ったら首都圏から地方にという大きな流れで、北播磨に戻ってくるのは、もう少し狭い地域なのかなという部分と、もっと小さく、コミュニティにもう一度戻

ってもらいたい、コミュニティの維持ということでも戻ってきてもらいたいなというような意味も込めて、勝手な考えで地域回帰という言葉を使っている。そういう意味では少し言葉足らずではある。

［委員］

・そうすると、移住・定住の促進という中で、これは別にＵターン以外のものも地域回帰の中に入っているというイメージか。（事務局：そうだ。）

本音は、外から人が入ってきてほしいということを、この中では結構押していきたいのか、もしくは若者を外に出したくないし、できる限りＵターンで戻ってきて欲しい。大都市の人がコロナで移動するとかいうレベルの話ではなくて、本当に移住の人が入ってきてほしいという方針なのか、それとも本当に、若い人が定着してほしい、出て行かないで戻ってきてほしいと、特に意識されているか。

［事務局］

・私個人的な意見だが、今の地域の活性化や、今後のことを考えると、人口減少社会の中では、根本には出生率を上げるということももちろんあるが、やはり若者に定着してもらい、また若者にこちらに目を向けてもらうことが、一番大事かと思う。それによってコミュニティも、健全な形が成り立っていき、経済的な面でも、あらゆる面で影響は一番大きいと思っている。だから意図としては、定着も移住も、両方の意味を込めている。

［委員］

・意図については理解した。

［会長］

・この地域回帰というのは、田園回帰じゃないかと思う。田舎の値打ち、そういうものをアピールしていけたらと思う。人間のふるさとは森で、田舎でもある。ここへ戻っていくという、人間性回復の場所という形もある。本来の人間の場所というのはやはり、田舎の良さと自然とふれあって暮らすというのがあると思う。田舎の良いところをもっと前面に出していけばいいと思うので、田園回帰ではないかと思う。地域から変わっていくということを、もっと重視してもいいのではないか。そして、自然環境保全は、活用を入れるといいと思う。「農」と「食」の魅力づくりというのもあるが、山田錦の産地とよく言われるが、もっと米を食べるように、主食の自給率を上げないといけない。そして、山田錦ばかり売るのではなく、いろいろな地元産、播州地鶏などと一緒に食べることができる現地に足を運んでもらう、そういう視点も入れてほしいと思う。また、自然環境保全のところに入ると思うが、園芸、花も入れるといいと思う。フラワーセンター、ラベンダーパーク、公園にはバラ、観光にも生かせると思う。

［事務局］

・地域回帰という言葉は考えたいと思う。私は少子高齢局で昨年まで仕事をしていたが、地域に子ども達を取り込もうということは言ってない。地域からＮＹでもパリでも活躍する子どもたちを排出していきたい。それと同時に北播磨に喜んで来てくれる方も呼び込みたい。そういった趣旨の書き方を考えたい。ここに喜んで来てくれる若い人たちを呼び込み、あるいは、高齢者でここを終の棲家として考えたいという人も当然歓迎する。といったことを書き込めていないので、もう少し議論させていただきたい。

［委員］

・また項目のところで産業・雇用のところだが、これが第５章になるとリードするというところに繋がるんだなと見ている。第４章では、地場産業の活性化が入っていて、

自然環境に農業が入っているが、この産業・雇用の中に農業はないようだ。それは項目として、生産するというだけではなくて、魅力づくりをして、それをビジネスにしていくことは入れなくていいのかと思っている。工業的な地場産業をどうするかというだけでなく、農業の未来というものを、古く言えば６次産業になるが、いわゆる加工品でとどまらないということを、私も言ってきたところがあるが、加工でとどまらないといったところ。そういう意味では、販売チャネルはあるが、農業も含めて、テクノロジーとあわせて産業・雇用というところをしっかり書けたらどうかと思っている。

［会長］

・産業・雇用のところ、また検討をお願いする。産業・雇用のところで、起業・副業の促進とあるが、この副業の促進まで言うのはどうかと疑問に思う。

［委員］

・地域回帰の話、委員がいい質問をされて、なるほどと思った。私の印象としてこの項目のまとめ、言葉として何がいいかというと、地域というのは全部が地域なので、地域という言葉を使うことはあまり意味がないかなと思う。回帰もご指摘の通りだろうと思うので、テーマは、やはり生活ではないかなと思う。北播磨でどのように生きていくのか、生きるのかということが、この項目のテーマかなと思うので、どういう言葉で表すのが一番いいかは、また考えていただきたいが、生活することというのは、一つの大きな柱ではないかと思う。ずっといる人も、これから入ってくる人も、それから地域の絆もすべて、どのようにここで生きていくのかということかなというイメージで読んでいたので、コメントを付け加える。

［会長］

・最後のところにいくが、その前に今の項目の一番最後、歴史・観光となっているが、その間に文化というのを入れることを検討いただきたい。それでは、最後の第５章、将来像の内容について意見をお願いする。

［委員］

・ひょうごのハートランド、これをずっと使ってきて、これからもまた使っていきたいというのが案２なのかなと思うが、ひょうごのハートランドという、大きなテーマについての地元の方々の反応、手応え、浸透具合、その辺の手応えは、そもそもどういうものだったのか、情報があるようだったら教えていただきたい。

［事務局］

・この地域に住んでいて、ハートランドというのは行政的には耳にしている。しかし、行政に関わっていない方がそれに関心を持って、ひょうごのハートランドを掲げていることを認識している人は少ないと思う。浸透ということでは、残念ながら地元で知っている人は少ないと感じている。

［会長］

・私もこのハートランドという言葉は、長く接していたが、まだ馴染んでない言葉かと思う。ハートランドという言葉で何か内容がわかるという言葉でもないので、メッセージ性に欠けるのかなと思う。案１は、メッセージとしては伝わってくるものがあると思うが、ハートランドで伝えたいことは何かというキーワードが出てこないのでイメージしにくいと感じる。

［委員］

・最終的な判断は、お任せするというか、何らかの方法で考えてもらえばいいと思うが、今出ている案１と２を、ひょうごのハートランドはなかなか捨てがたいということだろうから、それをサブタイトルのようにするということもあるかと思う。案１は

田園と都市が楽しめるということだが、例えば、田園都市というと、もうその言葉のイメージが固定しているが、目指しているのは田園都市ではない。幾らこの辺が豊かになっても田園都市とは呼びにくい。田園の都市というのも言いにくいだろう。そうすると案１のように田園と都市というように言わざるをえないだろうと思う。そこで両方楽しめるという関係で言うと、ひょうごのハートランドと関連させて、田園と都市との融合。そのあとに、心地よい北播磨というのを、ハートランドがどういうイメージかというのも含めて、どうしたらいいのかというのはあるが、心のふるさと北播磨とか、心豊かな北播磨としてみてはどうか。最終的に案としては、田園と都市との融合。そのあとに、心のふるさと北播磨、心豊かな北播磨としてサブタイトル的にひょうごのハートランドというのをつけていく、三つ目の案として提案する。

［委員］

・将来像のここちよい、おそらく播州弁だと思うが、私が 55 歳で、消防団で 10 代～30 代の子たちと話をすると、播州弁はあまり使わない。ここちよいという言葉を、そのグループで聞いたことがない。おそらく北播磨地域のビジョンなので、播州弁を意識して使って北播磨をＰＲ、アピールしていると思うが、ここちよいとか、あとで出てくるべっちょないとか、私たち世代がぎりぎりで、私以下は、べっちょないと言ったら逆に注釈、言葉の意味をつけないとわからない世代になってくる。2050 年に向けた場合に、今はより一層言葉が平均化、標準化している中で、極論的な播州弁は避けたほうが、これからの世代にとってわかりやすいのではと若干感じる。

［委員］

・べっちょないは、私はもちろん知らなかったので、地域の言葉かなと思っていた。ここちよいというのは、心地よいと書いて一般的に、快適とか、ほどよいのような感じなので、ひらがなで見るのが慣れている人と、漢字で見るのが慣れている人がいるかもしれないが、使っても大丈夫かと思う。なぜここちよいという言葉が出てきたのかというと、おそらくいろいろなグループの言葉の中に、ほどよい田舎という表現があって、それをちょっと堅苦しく言うと、都市的要素もあるし、田舎いわゆる自然環境、人のよさとかも含めた、それをうまく言うと、ほどよい田舎がいい感じみたいなのがあり、多分それを少し硬くして、案１の言葉が出てきたといういきさつを思い出した。

［委員］

・今の点でいうと本当は、使えるならば、ほどよい田舎とか、ちょうどよい田舎というのは、まさしくいろんな方が言っているので、入れられるものなら入れたほうがいいと思ったが、それを私があえて入れなかったのは、この田舎という言葉が、少しネガティブにとらえられがちで、人によって大分受け取り方が違うだろうと思ったからだ。それで、使わない方向だと、田園と都市という単語で表現するということしかないだろうと思った。今、発言があったべっちょないというのは、３の地域回帰のところの、はつらつと！べっちょない精神でのべっちょない精神という言葉は、使わないほうがいいのではという意見か。

［委員］

・今からの世代にはわからない言葉かと思う。

［委員］

・言語学をやっている立場から言うと、あまり今、使う、使わないということで、使わなくするというのは、仮に30年後ということを考えても、そういう判断で避けるのは、あまり好ましいことではないと思う。ちなみにこのべっちょないというのは、北播磨だけでなくて、割と広い地域に方言として使われている。このべっちょないとい

うのは、もう少し堅苦しい言い方をすると、もともとが別条ないという言葉のなまりで、特に問題ない、別条ないというような方言が各地にある。そういうことの、今自分たちが住んでいる地域や言葉との関係ということに、少し関連性を感じるということから考えても、むしろあえて使ってもいいのではないかと思う。愛着を持って表現された言葉だと思う。

［会長］

・消えていっているからこそ、残さないといけないという面もあるかと思う。５つの柱について意見があればお願いする。

［委員］

・前回すでに１回検討してこういう表現の仕方になっていて、委員が随分、統一した表現について言っていただき、それが反映されていると思う。だから、これでよいと思うが、先ほどのべっちょないに関しては、兵庫の人だけが見るのではないかもしれないし、阪神の人にはわからないかもしれないので、べっちょないというのは播州弁で、こういう意味でと、少し書き加えたらどうかと思う。

［会長］

・産業・雇用のところで、産業を切り拓きますというのは、これは決意なので、このタイトルに合ったように述べると、中身を考えないといけないと思う。切り拓きますというところまで言うことが可能かと思う。それでは、本日の意見を事務局で整理をお願いする。今後、県民局の若手職員、ビジョン委員会の企画部会でビジョン委員に意見を伺い反映されたものを、起草部会委員へお示しする。

［事務局］

・第４回起草部会を終了する。相談等あれば、お声かけするのでよろしくお願いする。